

資料編

1. 関係機関ヒアリング概要

: Mountains to Sound Greenway

: Federal Highway Administration(FHWA)

: Scenic America

: State of North Carolina(DOT)

: Blue Ridge Parkway(BRP)

2. 全米シーニック・バイウェイ会議(2001年ポートランド)

3. オレゴン州におけるシーニック・バイウェイ事例

Historic Columbia River Highway Scenic Byway

Pacific Coast Scenic Byway

4. シーニック・バイウェイをより魅力的にするための要素

資料編 2 . 全米シーニック・バイウェイ会議¹ (2001 National Scenic Byways Conference)

2年に1度開催される本会議は、オレゴン州ポートランド市において全米から約600名の関係者が参加し開催された。参加者の顔ぶれは多彩で、道路関係者のみならず、公園・観光関係者等の行政関係者が約半数。そして全米のシーニック・バイウェイ運営組織(バイウェイ・コミュニティ)担当者他、民間企業や関係団体などが加わる。また、活発な女性や高齢者が多く、なごやかながらも熱の入った討議が続いた。行政主体の会議でこれほど幅広い関係者が集まる会議はわが国ではあまり見ることができないが、「観光振興は地域開発の総仕上げ」と言われるように、総合性を発揮するためには多岐に亘る関係者の連携が不可欠である。

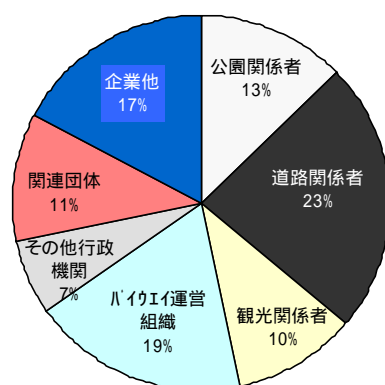
会議の主催者は、「米国バイウェイ支援センター(National Scenic Byway Resource Center)」と「米国連邦道路局(Federal Highway Administration)」の2者であるが、前者が会議の主たる事務局機能を担っている。「米国バイウェイ支援センター」は、ISTEA(米国総合陸上輸送効率化法)およびTEA-21(交通機会均等法)により設置が位置づけられた組織で、1999年、連邦道路局とミネソタ州内のアローヘッド地域開発委員会のジョイントベンチャーとしてミネソタ州ダルス(Duluth)に設立された。当支援センターの会報である「Vistas」によれば、“本センターの基本的責務は全米のバイウェイや州のバイウェイ・コーディネーター、州および連邦機関の担当者に対して支援することである”としている。そのため、バイウェイ・プログラムを推進していくために必要な情報の蓄積および共有化、技術的支援、会議の開催、全国的なネットワークの形成など、いわば全米バイウェイ・ネットワークの中核的役割を担っている。

図表 1 会議の概要

開催経緯	1999.8 (第1回大会) ルイスビル市 2000.7 全国研修会 2001.8.26-8.29 (第2回大会): ポートランド市
主 催	米国バイウェイ支援センター (America's Byways Resource Center) 米国連邦道路局 (Federal Highway Administration)
参加者	参加登録者数 485名 (一般参加者) + 121名 (報告者) = 606名
プログラム	講演、ワークショップ (詳細別記)、現地視察会、展示会

¹ 資料編 2 ~ 4 は 2001 年、宮武が会議参加した際のレポートをまとめたものである。

図表 2 会議出席者の構成の構成（所属別）



図表 3 ワークショップ・テーマ（抜粋）

セッション 1	セッション 2
<ul style="list-style-type: none"> ・資金調達の手法 ・マーケティング・ツール・キットの活用 ・経済学、パートナーシップとバイクイ・コミュニティ ・シニック・バイクイのインタープリティング ・現実的な感性豊かなデザイン ・歩行者、自転車利用者の利用施設 	<ul style="list-style-type: none"> ・バイクイ・ブランドの構築 ・移動性向上のための機会 ・バイクイ資源解説の手法 ・仮想バイクイコミュニティ ・パートナーシップの推進 ・観光と倫理のバランス
セッション 3	セッション 4
<ul style="list-style-type: none"> ・バイクイと関連団体等との連携 ・代替的資金調達 ・経済的効果 ・TEA21 と歴史保存 ・実践的調査法 ・アクセス性とバイクイ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホスピタリティ ・ビジターセンター ・景観保全計画 ・歴史街道 ・州を越えた連携 ・コリドー管理計画
セッション 5（現地視察：テーマ）	セッション 6
<ul style="list-style-type: none"> ・コロンビア川溪谷国立シニックエリア ・ランドスケープ ・歴史性 ・ビジター施設、インタープリテーション ・観光 ・レクリエーション 	<ul style="list-style-type: none"> ・バイクイにおける実践例 ・野生動物 ・サインのデザイン ・戦略的計画 ・バイクイに必要な技術 ・マーケティングの最大化

図表 4 展示会出展者一覧

<p>(政府・行政系機関)</p> <p>America's Byways Resource Center US Fish and Wildlife Service USDA Forest Service National Transportation Enhancement Clearinghouse Washington State Department of Transportation Washington State Scenic Byways Oregon Department of Transportation</p> <p>(民間団体)</p> <p>American Recreation Coalition Anchorage Convention & Visitors Bureau Colorado Scenic and Historic Northwest Interpretive Association Byway Program Carter & Burgess Inc. Scenic America</p>	<p>(民間企業)</p> <p>Car Tours CH2 MHILL Conference Host Committee Environmental Solution Heritage Design Interpretive Graphics Sign & Systems Mac Tec Systems Parametrix, Inc. Shive-Hattery, Inc. Transystems Corporation</p>
---	--



図表 5 本会議場前ホール



図表 6 開会式風景



図表 7 展示会場パネル展示 (パイウェイ)



図表 8 パイウェイ支援センター発行の機関紙



図表 9 民間発行の機関紙